

次世代のリスクリターン経営を支えるシステム基盤とその活用

(株)シーシーエス パッケージソリューション事業部 パッケージ営業部 マネージャー 酒井 陽司氏
製品企画戦略室 室長 金谷 健二氏

現在起きている問題点

現在、先進的な金融機関では経営管理システムを段階的に導入を目指してきたにもかかわらず、システムの再構築を余儀なくされる事態が起こっている。なぜ、そういった事態が起こるかという金融機関のシステム・アーキテクチャーは着実に広がりを見せており、各業務部門からの要望に応えるためサブシステムが順次開発を続けてきた結果、各業務部門の目的を達するため、サブシステム間の横のつながり・各業務部門の連携は余り意識せず、縦割りのシステム構成になっているためだ。それと、金融機関ならずとも企業の最大関心事である「儲かっているか」と言う情報が、一部のシステム(部署)でしか見ることができない状況が発生している。

上記の問題点は大きく分けて、①業務的な問題と②システムの構造上の問題である。

弊社が考える解決手段

弊社が長年、収益管理ソリューションを提供してきたベンダーという立場で、これを解決する手段を考えると、次の通りとなる。①「システム基盤」として将来必要になるであろう情報を盛り込んだシステム基盤を②最も効率的なポジションに構築することが賢明と言うことである。

次世代のリスクリターン経営のための、システム基盤として、各種サブシステムへデータ供給が簡易に行える事はもちろん、「儲かっているのか=リターン」という情報(収益管理情報)は、どのサブシステム(部署)でも必要になるため基盤情報として装備しなくてはいけない(収益情報は、ほぼ業界標準となっているスプレッド・バンキングベースの情報を装備する)。つまり、リスクだけでなく、リスクリターン情報収集基盤の確立である。

これが、更に発展を続ける金融機関ソリ

ューションを支えるために必要なシステム基盤であり、収益管理ソリューションベンダーである弊社にしか提供できない次世代のリスクリターン経営を支えるソリューションである。

製品紹介

弊社のソリューションとしては、WebCRANOSと言うパッケージ製品群(7金融機関での導入実績)があり、上記「システム基盤」部分として、信用金庫共同センター加盟社向けにCRANOS-Ask(4金庫での導入実績)を、その他金融機関向けにCRANOS-Ad(計画中)を提供しており、なお進化中である。

その他のラインナップとして、営業店収益管理アプリケーションとしてCRANOS-Bを、顧客別収益管理アプリケーションとしてCRANOS-Cを、収益管理用ラダー作成アプリケーションとしてLACSYSを提供しており、今後も「統合リスク管理」「時価会計対応」などのソリューションを提供していく予定である。

注) Web CRANOS
(Web Credit Risk and Return Analyzed Operation System)

